

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



MTT034-P05

会場:コンベンションホール

時間:5月24日 14:00-16:30

地球惑星科学関連の大学や学術団体におけるソーシャルメディア利用の現状と問題点

Use of social media in academic societies and universities in earth and planetary science: present situation & problems

早川 裕弐^{1*}, 小口 高¹

Yuichi S. Hayakawa^{1*}, Takashi Oguchi¹

¹ 東京大学

¹The University of Tokyo

近年、地球惑星科学関連の大学や学術団体におけるソーシャルメディアの利用率は、世界的に急速に高まってきている。たとえば地球惑星科学関連の学術団体としては世界最大級のAGUでは、ブログをはじめ、FacebookやTwitter、LinkedIn、YouTubeといったユーザ参加型のSNS(ソーシャルネットワーキングシステム)の利用を推奨しており、一方、EGUでは独自のSNS(COSIS.net)を運営し、いずれも学会からの情報提供や会員同士の交流を図っている。また、これらのソーシャルメディアは、大学単位でも公式アカウントとして利用されることも多くなっており、研究科や個々の研究室単位での利用も米国などでは特に多く見受けられる。一方、日本国内においても、私立大学におけるブログ、Twitterの公式アカウントも珍しくはなくなってきており、研究室や個人単位でみてもソーシャルメディアの利用率は上昇傾向にある。授業でTwitterを活用すれば、講義中の発言が難しい状況であっても、リアルタイムに学生の意見に答えることも可能になる。しかし、これらのサービスは簡便に利用できる反面、利用者・非利用者間の感覚のずれや、利用者間でも情報リテラシーの差異が顕在化することもあり、まだ十分に普及していないなかで利用することに関する注意も必要であろう。たとえば、大人数の授業でTwitterを利用する場合、現状ではTwitterを全員が積極的に利用することは難しく、あくまで補助的な手段にしかならざるを得ない。将来的にこれらのソーシャルメディアの利用環境が成熟すれば、科学の進展そのものにも充分に貢献するポテンシャルがあると考えられる。

キーワード: ソーシャルメディア, 学会, 大学, 情報リテラシー

Keywords: social media, academic society, university, information literacy